

2 新認定品種：日中友好の「華兵庫」

ねらいと成果

兵庫県の奨励品種のうち最も早熟な「フクヒカリ」は、いもち病に強く、比較的栽培適性の高い品種であるが、やや倒伏しやすく、腹白が多発し、外観品質も不十分で作付けは伸び悩んでいる。

そこで、これに代わる良質で良食味、加えてさらに早熟で野菜、花き等との輪作にも適した品種として「華兵庫」を育成した。

内容

1992年、「兵系54号」(後の「はつごぜん」)を母、「キヌヒカリ」を父として人工交配を行い、以後系統育種法により選抜固定を図った。この間、F3～F7世代については感温性品種の選抜に好適な中国広東省において選抜し、合わせて世代の促進を図った。

出穂期、成熟期がともに「フクヒカリ」より6～7日早く、本県では極早生の早に属する。稈長は「フクヒカリ」より短く、穂長は同程度、穂数がやや多く、草型は短稈の偏穂数型である。粒着

密度は中、脱粒はしにくい。

倒伏抵抗性は中程度で、穂発芽はしにくいとされる「コシヒカリ」よりさらに穂発芽しにくい。また、内穎褐変病の発生が「フクヒカリ」より少ない。障害型耐冷性は、中程度の「フクヒカリ」よりやや弱い。いもち病には抵抗性遺伝子*Pi-t*を持つと推定されるが、強くない。

収量は極早生種としては高く、玄米は中形の中～小粒で、腹白、心白の発生は少なく、小さい。食味は食味関連成分のうちアミロース含量が低く、「コシヒカリ」並み～やや劣る程度で、良好である。

今後の方針

県南部平坦地の地力が中程度の地域に適する。良質、良食味米生産の観点から、あまり多肥栽培としない。また、高温期に登熟するので、登熟期の水管理に注意するとともに、適期に収穫し、その後の乾燥も含めて胴割米の発生を防ぐようにする。

田中萬紀穂 (旧農業技セ・作物部)

表1 「華兵庫」の生育・収量・品質

品 種 名	出 穂 期 (月日)	成 熟 期 (月日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/m ²)	障 害 の 多 少				精 玄 米 重 (kg/10a)	同 左 比 率 (%)	玄 米 重 (g)	玄 米 品 質
						倒 伏	葉 い ち	穂 い ち	紋 枯 病				
華 兵 庫	7. 26	8. 29	76	19. 9	426	2. 0	0. 8	0. 3	1. 8	561	101	21. 7	3. 8
比) フクヒカリ	8. 1	9. 5	83	19. 9	401	1. 9	0	0	0. 5	557	100	23. 2	3. 2

注-1) 試験年次：1998年～2001年

注-2) 播種期：5月11日、移植期：6月1日、施肥量 (Nkg/10a) 基肥 (代かき前) 4-幼形期 2

-3) 障害の多少は0(無)～5(甚)を、玄米品質は1(上上)～9(下下)を示す。

表2 「華兵庫」の食味官能調査成績

試験年次	品 種 名	総合評価	食味ランク
2000	華 兵 庫	0. 050	A'
	参) コシヒカリ	0. 450	A
2001	華 兵 庫	0. 450	A
	参) コシヒカリ	0. 550	A

注-1) 日本穀物検定協会神戸支部の調査による。

-2) 食味評価は、滋賀県産日本晴を基準に実施した。食味ランクは、A (基準米より明らかにうまい)～C (基準米よりかなりまずい) の5段階評価を示す。

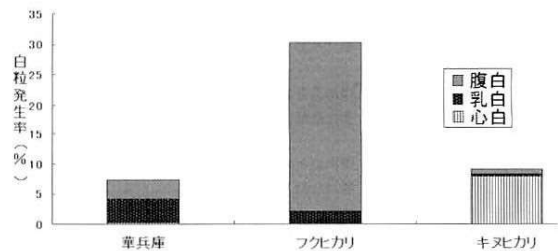


図 白粒発生率の品種間差 (2002年産)